

千葉県九十九里浜で104年ぶりに観測した上位蜃気楼

大木淳一（千葉県生物多様性センター）・武田康男（関東ブロック）

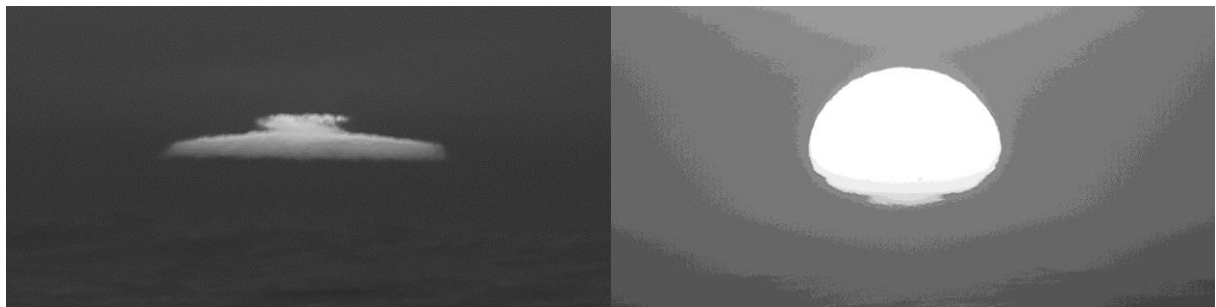
2015年8月5日～7日に千葉県九十九里浜（全長約66km）の中央付近に位置する九十九里町真亀の海岸から上位蜃気楼を観測したので、その出現状況を報告する。

【2015年8月5日】

8時頃、南方の太東崎方面の崖が上方に伸びた上位蜃気楼を確認した。その後、9時頃には蜃気楼は消失した。九十九里沖、北方の銚子方面では上位蜃気楼を確認できなかった。

【2015年8月6日】

4時50分頃の日の出ではお椀を伏せたような形で太陽が現れ、その後、下方で一部が分かれたつぶれた形の太陽が確認できた。



6時頃、海岸が朝靄に覆われて視界が不良だったが、7時頃、靄が晴れると上位蜃気楼が南方の太東崎方面だけでなく、九十九里沖や北方の銚子方面にかけても出現した。以下に各方向別に詳細を記す。

<太東崎方面（九十九里浜南方）>

7時～10時30分頃、太東崎の西側に見える浜辺付近で船が上方に反転したり、崖や建物が伸びる様子を確認した。また、岬周辺の形も変化した。



通常の景色



<九十九里沖>

7時45分から9時過ぎ、九十九里沖で広域的に船と海面が上方に反転し、橋が架かったような形状を確認した。



<銚子方面（九十九里浜北方）>

7時～14時頃、銚子方面の船や崖、建物などが上方に反転したり、風力発電の羽根が扁平になる様子が長時間連続して確認できた。



【2015年8月7日】

9時20分～40分頃、南方の太東崎方面の建物や崖が上方へ伸びる様子が観察された。

上位蜃気楼の発生メカニズムに関しては、8月6日の早朝の海上に霧が見られたことから海上に比較的冷たい空気の層があったと考えられ、その上に房総丘陵で暖められた空気が南風や西風によって九十九里沖に入ることによって急激に温度が変化する境界層ができ、上位蜃気楼が現れた可能性が高い。最も近い千葉県茂原の気象庁アメダスデータで1～7日が連続猛暑日であった影響もあるだろう。

なお、1911年に寺田寅彦博士が九十九里浜沖の船から上位蜃気楼をスケッチしている。